

<b>G144</b>	<b>環境社会学：戦後日本の環境問題を社会学の視点から捉える</b>		
英名科目名	Environmental Sociology		
大学名	龍谷大学		
連絡先	教学部 TEL：075-645-7891 FAX：075-643-5021		
担当教員	脇田 健一		
開講期間	2021年09月21日(火)～2022年01月18日(火) 3講時(13時30分～15時00分) 毎週火曜日		
開講形態	後期・秋学期	開講曜日・講時	火曜日 3講時
単位数	2	履修年次	2年次以上
会場	瀬田学舎		
授業定員			
単位互換生定員		京カレッジ生定員	
試験・評価方法	レポート 30% レポート3回 定期試験 70%  <b>【自由記載】</b> 論述と語句説明。あらかじめ、試験に関する情報は提供する。ただし、自宅での復習が重要。		
超過時の選考方法	書類選考		
受講料	30,000円(単位互換履修生は不要)		
別途負担費用			
その他特記事項	<b>【定員】</b> コロナの状況を鑑み、教室定員を超える申し込みがあった場合、抽選を実施する可能性があります。  <b>【会場】</b> 龍谷大学瀬田学舎 第1回目の教室については別途「お知らせ」欄に記載します。  <b>【授業時間外における予・復習等の指示】</b> あらかじめ資料を配布した場合は、必ず、資料に目を通して予習をすること。また、宿題は必ず次の授業時に提出すること。  <b>【オフィスアワー・教員との連絡方法】</b> オフィスアワーは金曜日の3限です。できればE-mailで連絡をとってください。 wakita@soc.ryukoku.ac.jp 研究室か社会共生実習支援室で行います。		
パッケージ科目			
低回生受講推奨科目			
<b>講義概要・到達目標</b>			
<b>【講義概要】</b> この講義では、第二次世界大戦後の日本社会において発生した様々なタイプの環境問題を、その背景にある社会や経済の変化とともに歴史的に理解しながら、それらの環境問題との格闘のなかから生み出されてきた「被害構造論」、「受益圏・受苦圏論」、「生活環境主義」等の理論的枠組みや概念を学んでいく。			
<b>【到達目標】</b> 戦後日本の地域社会で生じた環境問題を考えるうえで必要な社会的な知識や視点を獲得する。			
<b>【講義方法】</b> 講義形式で行う。教科書と授業中に配布するプリントを用いる。出欠はとらない。ただし、履修者とコミュニケーションをはかるために、講義の最後に、あるいは宿題として簡単な感想やコメントを書いてもらうことがあるので注意すること(あらかじめ予告しない)。また、授業期間中にレポートの提出も求める。			

<b>講義スケジュール</b>	
第1回：イントロダクションと環境問題の歴史 第2回：公害 第3回：公害 第4回：公害 第5回：大規模開発 第6回：大規模開発 第7回：生活環境問題 第8回：生活環境問題 第9回：自然保護 第10回：自然保護 第11回：食と農 第12回：食と農 第13回：身近な自然 第14回：身近な自然 第15回：講義の振り返りとまとめ	
教科書	鳥越皓之・帯谷博明編『よくわかる環境社会学第2版』(ミネルヴァ書房)(ISBN:4623079341)
参考書	特になし